



## 目的

- 駅前複合施設内にある図書館の集客力を高め、まちの賑わいづくりを創出する。
- 一部無人化により開館時間を拡大し、いつでも、誰でも気軽に便利に利用される図書館を目指す。

## 課題・背景

- 開館時間の拡大（施設休館日の均一化）。
- 利用者カード忘れへの対応。
- 狭隘化された図書館でのブラウジングスペースの確保
- 新型コロナウイルス感染症予防のため、人との接触を減らす。

## 事業のポイント

- ✓ 手のひらをかざすだけの認証は、カード忘れの問題を解消し、お子さんを抱っこしたまま片手で貸出できる、非接触で安全なサービスが受けられるなどの利点もある。
- ✓ 蔵書の不足を補うため、雑誌の最新号400タイトル以上の読み放題の電子雑誌やえにわ電子図書館800冊を利用できるタブレットを整備。

## 期待される効果

- ✓ 寄り道効果による利用者増や新規利用者開拓
- ✓ 窓口オペレーション業務縮小による司書業務の充実
- ✓ 市民のデジタルリテラシーの向上
- ✓ 膨らむ人件費の抑制

## 推進体制

恵庭市教育委員会  
株式会社図書館流通センター（指定管理者）  
富士通Japan株式会社（システム構築）

## 概要

- 恵庭分館カードレスIC化事業は、利用者カードを持たずに何気なく立ち寄った方でも貸出を可能にし、複合施設内の様々な場所に本や雑誌を設置し、いつでもどこでもゆっくり読書を楽しむ環境を整えた事業。（事業費 30,158千円）
- 建物入口にセキュリティゲートを設置。貸出手続きなしで館内のどこでも読書できる。
- 簡単に操作できる機器導入により、窓口オペレーション業務を縮小し、司書業務であるレファレンスや読書相談の充実を可能に。
- 同時にプライバシーも保護できる。
- 貸出・返却・予約などの主なサービスをセルフでできることから、開館時間の拡大を図る。
- 人同士の接触をなるべく減らすことで、新型コロナウイルスの感染症の予防を可能にする。
- カード忘れでも本が借りることができるよう、生体認証システムを導入。

導入機器	内容	数量
手のひら静脈認証システム	手のひらをかざし、本人認証。	一式
図書館ICシステム	ICタグで蔵書を管理	一式
IC自動貸出機	セルフ貸出機。10冊まで一度に貸出処理が可能。	2台
IC自動返却機	セルフ返却機。仮返却が可能。	1台
セキュリティゲート	ICゲートにより盗難を防止	3基
タブレット・大型モニタ	電子図書館や電子雑誌・新聞の閲覧	6台



## 担当者より

手のひら認証の導入により多くの方々に図書館への関心を持っていただくことができた。今後は利用状況を検証したうえで、他の館へ導入できるか検討していきたい。

## お問い合わせ

恵庭市教育委員会教育部読書推進課  
電話：0123-36-1545 メール：dokushosuishin[アット]city.eniwa.hokkaido.jp